

- (1) 調査の目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年(教科) 小学校第6学年(国語・算数)、中学校第3学年(国語・数学)

(3) 実施日 令和6年4月18日(木)
- お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

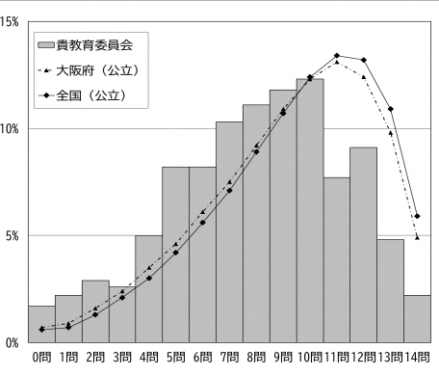
【小学校国語】

	平均正答数	平均正答率	平均無解答率
四條畷市	8 問 / 14 問	57.0%	7.0%
大阪府	9.2 問 / 14 問	66.0%	4.3%
全国	9.5 問 / 14 問	67.7%	4.2%

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		四條畷市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	52.1	63.4	64.4
	情報の扱いに関する事項	79.1	85.5	86.9
	我が国の言語文化に関する事項	59.1	72.6	74.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	50.8	57.3	59.8
	書くこと	60.3	65.9	68.4
	読むこと	60.9	69.0	70.7

◇「書くこと」の正答率の全国との差はあるものの、記述力に取り組んできた学校では成果がみられた。思考力・判断力・表現力を育てるための授業改善が一定進んできたと考えられる。

◆「読むこと」領域では全国との正答率の開きが他の領域よりも大きく、本市の課題であると考えられる。人物像や物語等の全体像を具体的に想像する問題にも課題がみられた。また、主語・述語の関係や文中で漢字を正しく使うことに課題がみられた。



【これからの学習に向けて】
登場人物の人物像を明確にしたり、想像した人物像の根拠となる描写を明らかにしたりしながら読む、読み取った内容や想像した人物像について、友だちどうして交流するなどの学習活動の工夫が必要である。日常的に漢字を文や文章の中で使える力の育成が必要である。

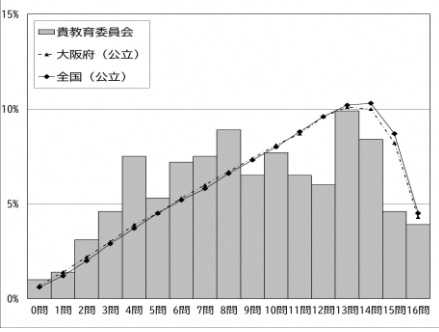
【小学校算数】

	平均正答数	平均正答率	平均無解答率
四條畷市	9 問 / 16 問	56.0%	5.2%
大阪府	10 問 / 16 問	63.0%	3.4%
全国	10 問 / 16 問	63.4%	3.4%

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		四條畷市	大阪府	全国
領域	数と計算	58.5	65.3	66
	図形	59.3	65.2	66.3
	変化と関係	45.5	50.9	51.7
	データの活用	54.5	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	66.9	71.9	72.8
	思考・判断・表現	42.8	50.5	51.4

◇領域別にみると「図形」の正答率が高く、直方体の見取り図の理解など、数学的な活動を通じた理解につながっていると考えられる。知識・技能については、全国との差が小さく、とくに計算技能の定着がみられる。

◆条件にあわせて、計算の方法や考え方を数字や言葉で記述することや、グラフと文章から必要な情報を読み取り、解答することに課題がみられた。



【これからの学習に向けて】
文章をしっかり読み、問われている内容や条件設定が何かを理解する力が求められており、読解力を高める必要がある。単にグラフを読み取るだけでなく、必要な情報を関連付けて読み取るなどの情報活用能力は教科を越えて、他教科においても育む必要がある。

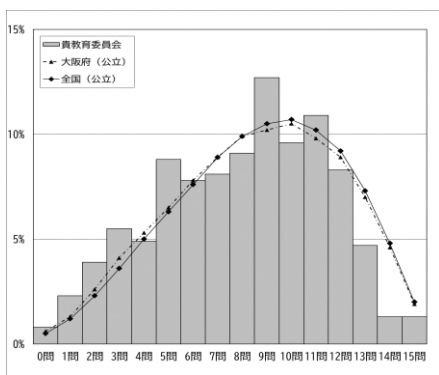
【中学校国語】

	平均正答数	平均正答率	平均無解答率
四條畷市	8 問 / 15 問	53.0%	4.6%
大阪府	8.6 問 / 15 問	57.0%	4.2%
全国	8.7 問 / 15 問	58.1%	3.9%

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		四條畷市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	56.9	59.1	59.2
	情報の扱いに関する事項	55.7	59.4	59.6
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	75.8	75.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	46.5	56.4	58.8
	書くこと	63.9	63.3	65.3
	読むこと	43.6	47.2	47.9

◇「言葉の特徴や使いに関する事項」で主語や修飾語等の使い方、漢字、短歌の表現方法など、単元の大小に関係なく全国の正答率に近い。

◆「話すこと・聞くこと」領域で全国との大きな差が見られた。また、資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことや、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることに課題がみられた。



【これからの学習に向けて】
記述式問題など考えを形成し、表現する活動において、めざす姿を具体的に子どもも教師もイメージしながら、学習を行うことが大切である。対話型の学習形態では、単に伝えるだけではなく、国語科でつけた力が育てられるような対話を行う授業改善をすすめる必要がある。

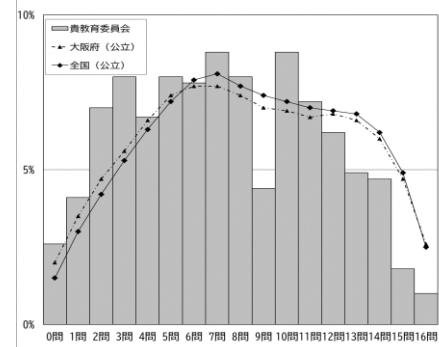
【中学校数学】

	平均正答数	平均正答率	平均無解答率
四條畷市	7.4 問 / 16 問	46.0%	14.3%
大阪府	8.2 問 / 16 問	51.0%	12.6%
全国	8.4 問 / 16 問	52.5%	11.3%

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		四條畷市	大阪府	全国
領域	数と式	42.6	50.4	51.1
	図形	33.9	40.5	40.3
	関数	54.5	58.9	60.7
	データの活用	50.6	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	57.2	61.9	63.1
	思考・判断・表現	21.1	28.2	29.3

◇領域別では、「関数」「データの活用」の正答率は全国平均との差が小さい。現行の学習指導要領で新たに追加された学習内容を用いる問題であり、各校において重点的に指導されていることがうかがえる。

◆答えを求める方法を「説明する」ような、「思考・判断・表現」や「記述式」問題に課題が見られた。あわせて、そのような問題について、無回答率が高い。



【これからの学習に向けて】
知識・技能だけでなく、数学的な見方・考え方を働かせることが大切である。証明の問題など、筋道を立てて考え、説明するなど、問題解決の過程を大切にしながら、粘り強く取り組む態度の育成が必要である。

学びに向かう力（知識・技能、思考力・判断力・表現力とともに育むべき力

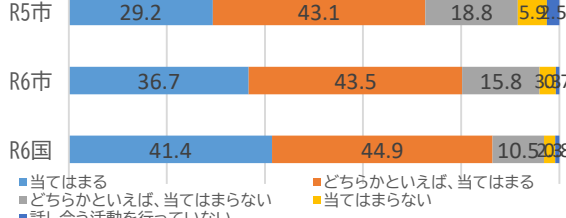
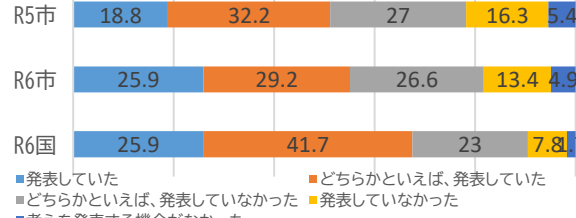
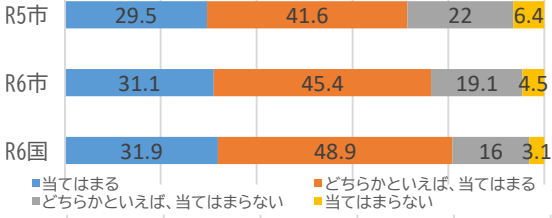
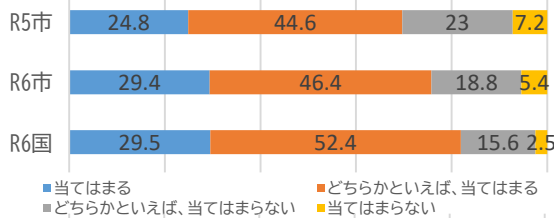
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

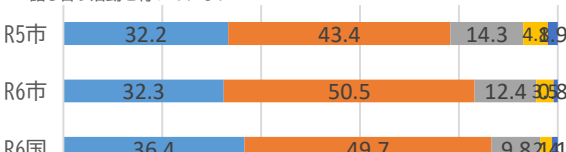
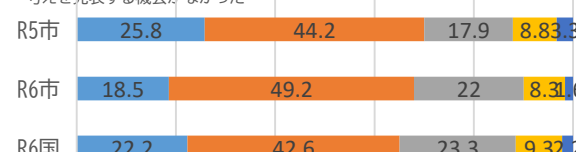
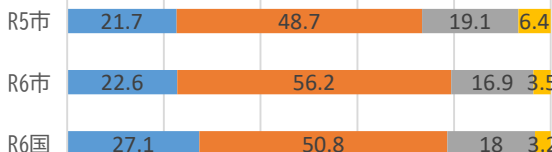
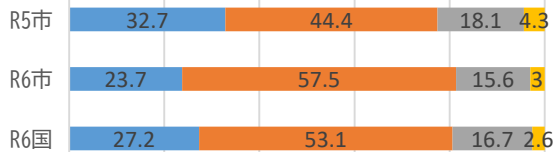
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

小学校



中学校



「課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいる」という問いに対して最肯定の回答をした割合は、小学校では増加、中学校では減少している。

「学習内容について、次の学習につなげている」という問いに対して肯定的に回答した割合は、小中ともに増加傾向にあるが、全国平均には達していない。

子ども自身の学習改善に関する項目について肯定的に回答した割合は、小学校は増加傾向にあり、中学校ではやや減少傾向にある。今後も主体的、対話的な、子ども主体の授業改善をすすめる必要がある。

子どもたちの自己肯定感

子どもと教職員の関わり

家庭学習

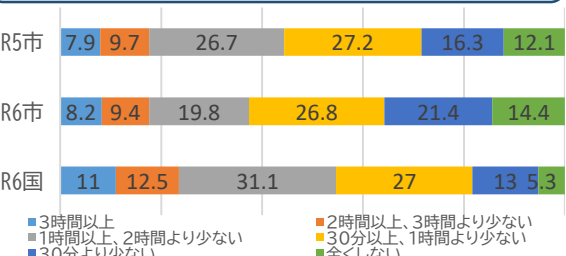
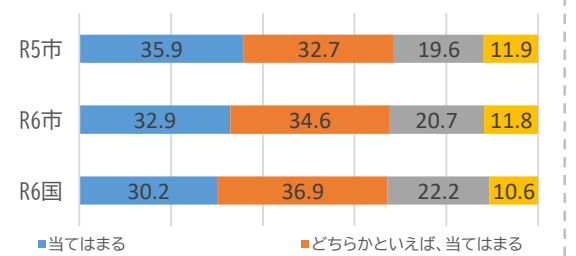
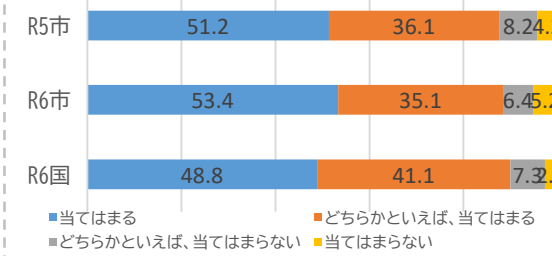
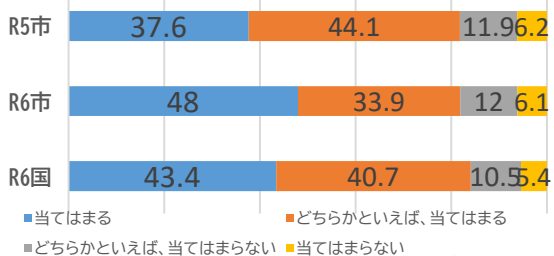
自分には、よいところがあると思いますか

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

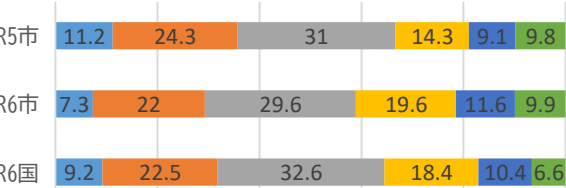
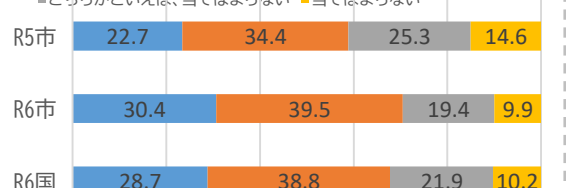
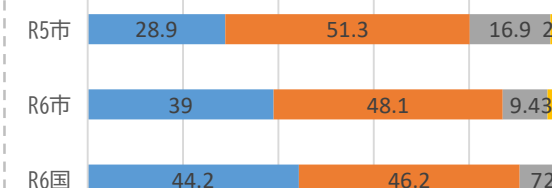
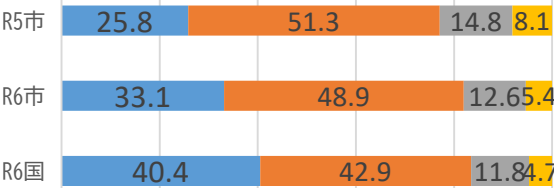
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット活用の学ぶ時間も含む）

小学校



中学校



「自分には、よいところがある」という問いに対して肯定的に回答した割合は、小中ともに増加している。小学校は最肯定の割合が全国を越えている。

「先生はあなたのよいところを認めてくれている」という問いに対して肯定的に回答した割合は、小中ともに増加している。特に、中学校では最肯定の割合が大きく増加している。

「困りごとや不安を先生や大人に相談できる」という問いに対して肯定的に回答した割合は、小中ともに全国を超えており、相談しやすい学校づくりが進んでいる。特に、中学校では肯定的な割合が大きく増加している。

家庭学習時間については、小学校において「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合が全国を大きく上回っており、小中ともに家庭学習時間について課題がある。